

すいたのむかしからいまへ

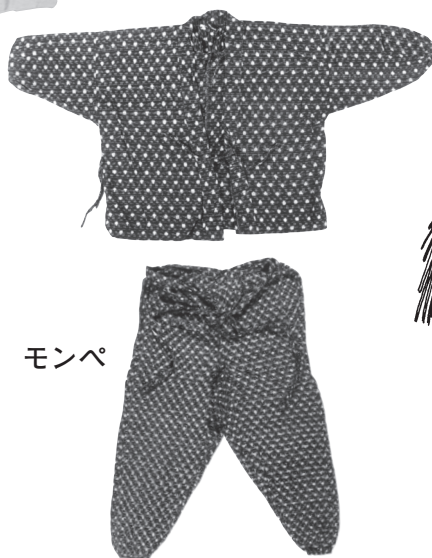
き 着 る

現在、わたしたちが着ている洋服をみんなが着るようになったのは戦争が終わった頃からです。それまでは反物(着物を縫う布)を買って家で縫った着物を着ていました。農家の人たちの仕事着は男の人は下に紺の木綿のバッチ(パッチ)、上はジュバンに木綿のシャツ。寒い時はその上にそでのないジンベやドテラを着ました。女の人には着物にたすきがけで着物のすそをまくって手にテッコウ、すねにケハン(キャハン)を着けました。女の人には戦争中モンペができました。雨の日はみのと笠を着け、笠は日差しよけにも用いました。子どもの着物は筒袖の紺かすりで兵児帯をしめました。



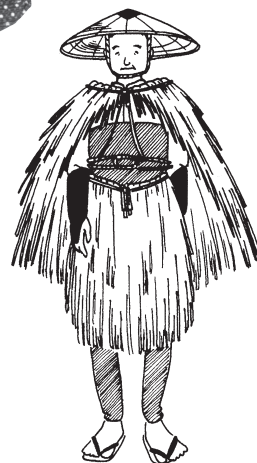
うわ ぎ 上着

バッチ (パッチ)



モンペ

ウワッパリ



み の ・ 笠
あめ ひ のう さぎょう つ 雨の日の農作業に着けます。

やまたかぼう 山高帽

よそいきには帽子をかぶることがありました。



とんぴ
おとこ ひと がいいつよう 男の人の外出用のコート。



ジンベ



ドテラ



こ ども の き も の 着物



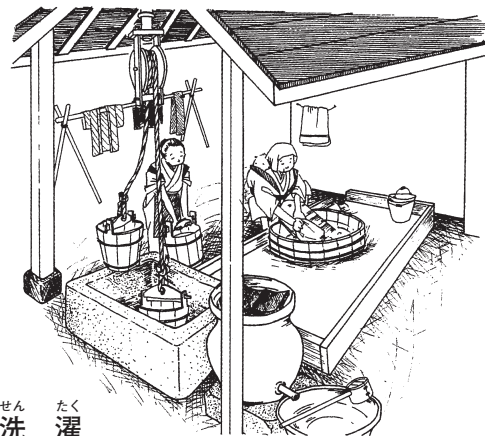
ぞう り 履 草

わた はい 綿が入ってあたたかく冬の寒い時期に着ます。

くつをはくようになるまで、みんなはきました。わらを編んで自分で作ります。

せんたく あら 洗濯と洗いはり

水道も洗濯機もなかった時代は、井戸や川の水を
使って、たらいと洗濯板で洗濯をしました。洗って
のりづけをし、しわをのばして乾かします。また、
洗いはりといって、春になると一年間着た着物をほ
どいて洗い、のりづけした布をはって干し、もう一
度縫い上げました。



せん たく
洗 濯



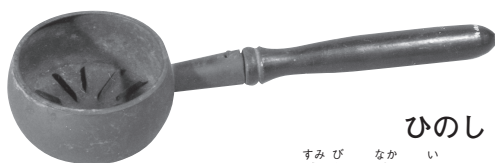
いた
はり板

せんたく ぬの
洗濯してのりづけした布
をはって乾かします。



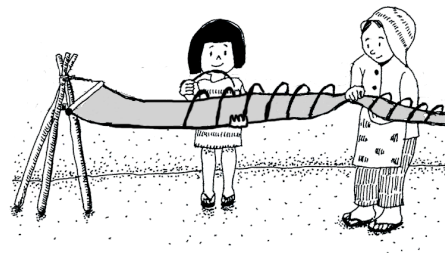
きぬた

せんたく ぬの よこづち
洗濯した布を横槌でたたいてやわらか
くしたりしわをのばします。



ひのし

すみ び なか い ねつ
炭火の中に入れ、その熱で
しわをのばします。



しん し ば
伸子張り

きもの あら
ほどこした着物を洗ってのりづけし、
しわにならないように乾かします。



せん たく いた
たらい・洗濯板

い ど かわ みず
井戸や川の水をくんでたらいに入れ、
せんたくいた
洗濯板でこすってよごれをとります。



せん き
洗たく機も
かわってきたね



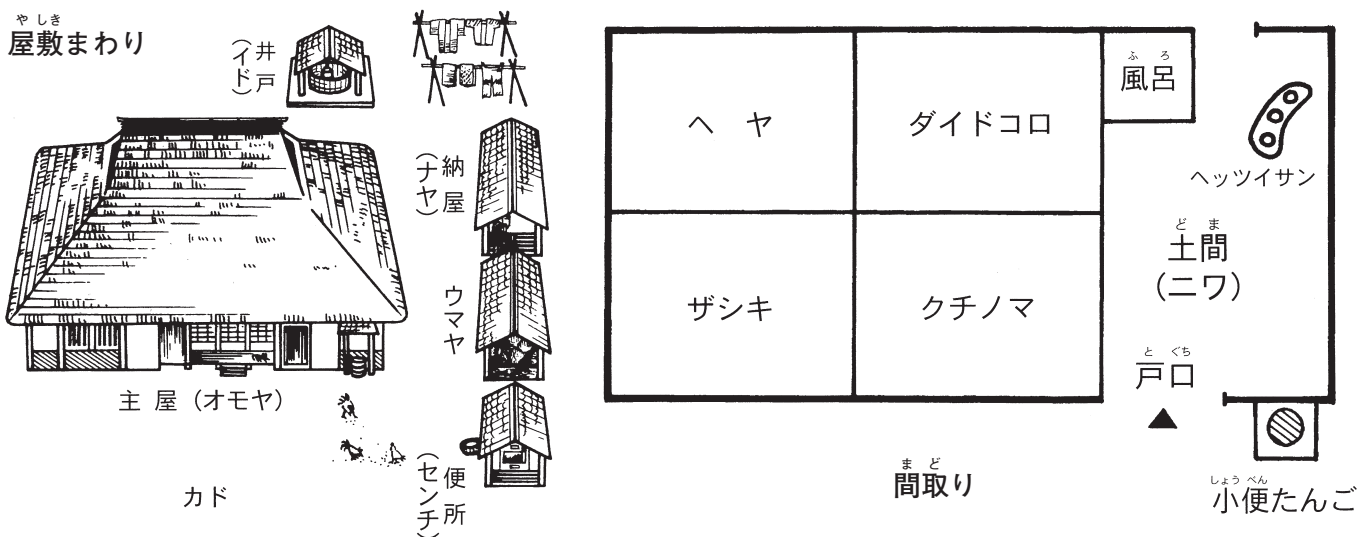
ハンドルを
まわ
回すと…



あら
洗うところが2つ…

むかしの農家

むかしの農家は、屋根はカヤやワラで、その他は大部分が木や土でできています。大きなガラス窓やアルミサッシ也没有。また、2階だてではなく、ほとんど1階だてです。家の前にはカドという広い外庭があり、もみほしなどの農作業が行われます。食事をしたり寝る家の他に農作業の道具を入れる納屋や牛を飼っているウマヤ、井戸があり、大便、小便は肥料にするため便所は外にありました。家の中は部屋と土間からなり、ごはんは土間で作ります。部屋と部屋のしきりは、ふすまやしょうじで、これらをはずすと大きな部屋にもなります。



風呂

水道がなかったころの風呂は鉄の釜の上に桶がついた五右衛門風呂が多く、井戸や川からくんできた水をわらやたきぎを燃やしてたきました。遠く離れた場所から水をくんでくるのはたいへんな仕事でした。底が鉄であつくなるためゲスイタという板をしいてその上にのってはいります。また、釜で沸かしたお湯を入れ部屋の中でつかう座敷風呂のある家もあります。水をくんだり、お湯を沸かすわらやたきぎをあまり使わなくてすむように、隣の家どおしで日を変えて交代で風呂をかせてもらったり、夏は行水ですませたりもしました。



ご え もん ぶろ
五右衛門風呂



ざしき ぶろ
座敷風呂

お湯がさめにくいように炭火をいれておく筒がついています。



ユニットバス

よく じ つく 食事を

現在は食事を作る場所と食べる場所がひと続きになっている家が多いのですが、むかしは床が土のままの土間で作り、板の間や畳で食べました。水道はなく、井戸などから水をくんで運びます。ガスや電気すいはん器もなくヘツツイサンといわれるカマドが土間のすみにあり、わらやたきぎを燃やして釜やなべでごはんやおかずを炊きました。スイッチ一つでごはんが炊ける今とはちがい、弱い火や強い火と火の大きさに注意しながら炊きました。



こめ
米びつ
こめ い
お米を入れておきます。



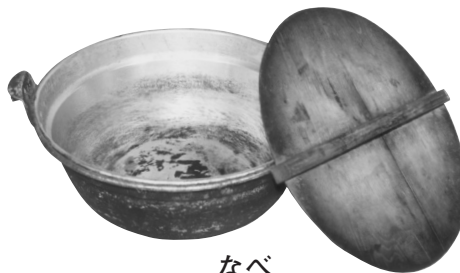
ます
枅
こめ こくもつ りょう
お米や穀物の量をは
かります。いろい
ろな大きさがあります。



かま
釜



いた
まな板
いた そこ あし
まな板の底には足がついています。

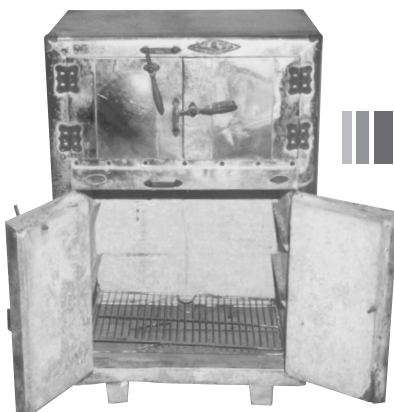


なべ



カンテキ

もち運びができ、どこでも
つか
使えます。炭火で少量の料理
をしたり魚を焼きます。



こおりれいぞう こ
氷冷蔵庫

でん きれいぞう こ
電気冷蔵庫ができる前の冷蔵庫は、
じょうだん こもり かた い
上段に氷の固まりを入れて冷やし
ていました。

でん き れいぞう こ
電気冷蔵庫



ひら
開くと…



くらしは
どうかわる？

食べる

むかしの食事は朝は麦ごはんにつけもの、みそ汁、
 昼は麦ごはんには汁物、めざしなど、夜はそれに野菜
 の煮物がつきます。肉や魚はあまり食べません。ま
 た、生物や油ものもほとんど食べませんでした。



はこぜん
箱膳

箱の中に茶碗、汁もの碗、皿、はしなどが入っており、ふたを裏
 返して膳にして食べます。食べ終わるとお茶や湯でゆすいで箱の
 中にしまします。食事ごとにお皿を洗うことはしません。



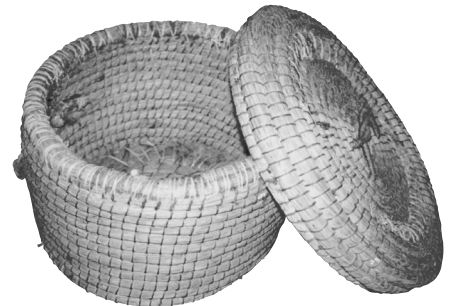
おひつ

炊けたごはんを釜から
 取り出し、うつします。



めし
飯かご

夏のあつい時期、ごはんがくさらないように風通しの
 よい竹かごに入れ、すずしい場所に置いておきます。



めし
飯ふご

冬にはごはんがさめにくいように、
 おひつごとごはんを中に入れてお
 きます。



みず
水がめ

井戸からくんだ水を入れてた
 めておきます。



せいろ
蒸籠

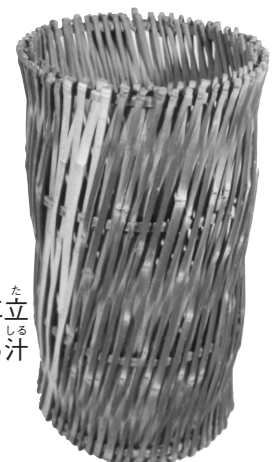
湯を沸かした釜の上のせ湯気で
 お米などを蒸します。

みそ作り

食事に使ういろいろな調味料はむかしはほ
 とんどなく、みそと塩ぐらいで、みそは家で作
 りました。蒸したお米と煮た大豆をすりつぶし
 たものに、こうじと塩をまぜて桶に入れておく
 とみそになります。また、このみそからしみ出
 てくる汁を醤油として使いました。



みそ
桶



たて簀
みそ桶の中に立
 て、しみ出る汁
 をとります。



しよくじ ふうけい

食事風景

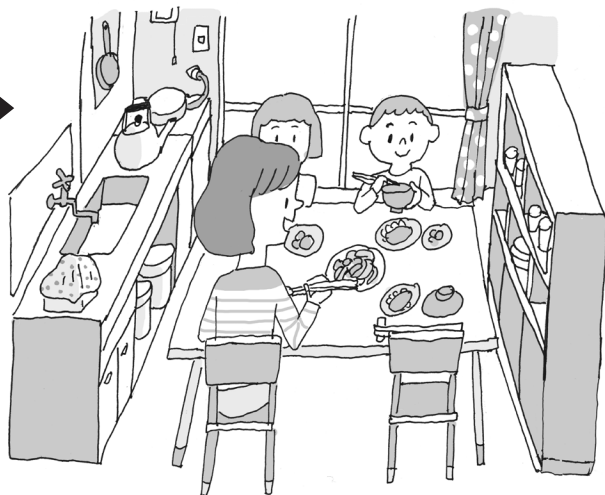
しよくじ いた ま たたみ た ばしょ き
 食事は板の間や畳にすわって食べました。すわる場所も決
 まっていました。しよくき じぶん はこそん
 食器はめいめい自分のものがあり、箱膳で
 た はこそん か たいしやう しょうわ
 食べました。箱膳に代わって大正のおわりから昭和のはじめ
 にかけて一つの食卓（おぜん・ちゃぶ台）をかこんで食事を
 ひと しよくたく だい しょうじ
 するようになり、やがて、いすにこしかけるテーブルへと変
 わっていきます。



おぜん
だい
(ちゃぶ台)



ばん ばん
ひら
開かれた
ころね



おやつ

むかし、おやつは自分の家で作ったおかき、あられ、炒り豆、
 ふかし芋などで、店で買うことはあまりありませんでした。お
 かきは、のし餅をうすく切って乾燥させ、焼いて食べます。あ
 られもち がた き かんそう い た
 られも餅をさいころ形に切って乾燥させ、炒って食べます。



ほうらく

あられや豆を炒ります。



カキモチ切り

のし餅をうすく切ります。



いしうす
石臼

うえ あな こめ つぶ い うす
 上の穴からお米などの粒を入れて臼
 を回すと上と下の臼の間から粉にな
 って出てきます。だんご つく
 お米を粉にしたり、炒った大豆や麦
 を黄粉やはったい粉にもしました。



アイスクリームフリーザー

アイスクリームをつく 家もあり
 ました。

あかりのうつりかわり

あぶら 油のあかり



あんどん

皿に入れた油にひたした灯芯に火をともします。まわりを紙でかこって風で火が消えないようにしています。

むかしは、いつでも電灯や暖房器具が使えるわけではありません。あかりには、古くは油を使ったあんどんやろうそくを使った燭台を使用していました。やがて石油を使ったランプになります。石油ランプはホヤにすすがたまり、すすをふきとるのは子どもの仕事でした。電灯がついても各部屋にあるわけではなく、家に一つで夜の間だけとりました。また、暖房にも炭やお湯を使った火鉢、こたつ、湯たんぽなどが使われました。

ろうそくのあかり



てしよく
手燭

ろうそくを立て、手で持ち運びができるようになっています。



くら
蔵あんどん

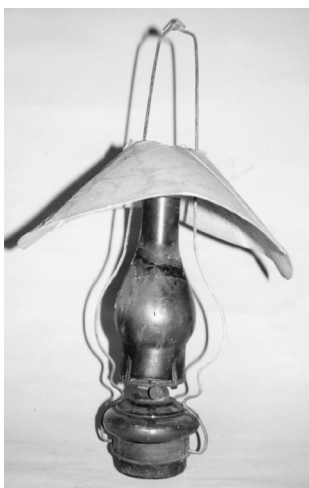
蔵などに持って入るあかり。



しよくだい
燭台

ろうそくを立ててあかりとします。

せき ゆ 石油のあかり



つりランプ

石油をすいあげた芯に火をともしてあかりとします。天井からつるして使いました。



お
置きランプ



ガンドウ

手に持って前を照らします。どのように持っても中のろうそくが自由に回転して倒れません。



ちようちん
提灯

夜、外出する時、あかりとして手に提げていきます。

だん ぼう
暖房

だん ぼう にも すみ や お湯 を 使った 火鉢、こたつ、湯たんぽ などが 使われました。



ひ ばち
火鉢

はい い なか すみ び
灰を入れて中に炭火や
け すみ かた
消し炭を固めたたどん
の火を入れ、手元をあ
たためます。



こたつ

ねんりょう
燃料のたどんを入れ、その
う え あしもと
上からふとんをかけて足元
をあたためます。



ゆ 湯たんぽ

ゆ い あしもと
湯を入れて足元をあたためて
ね か し
寝ました。こたつは火事にな
る 危険があつたため子どもが
おも つか
主に使いました。

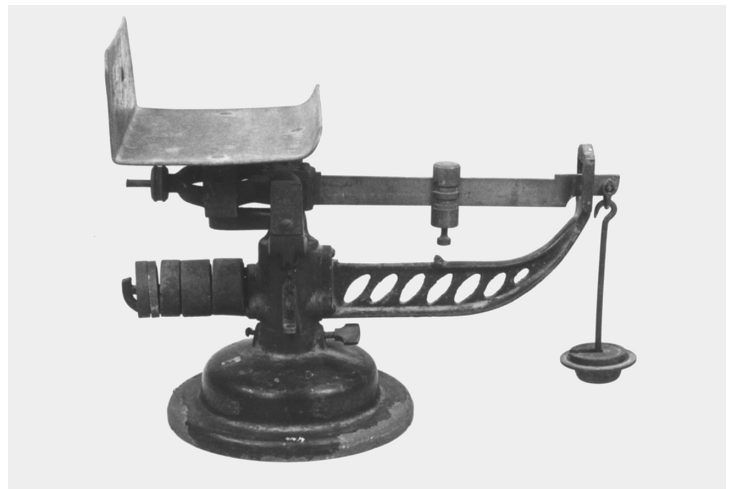
はかり

ふる おも
古くは重さをはかるには、
てこの原理を利用したさおば
かりなどが使われ、現在とは
ちがい、手間がかかりました。
さおばかりは、いろいろな大
きさがあり、俵に入ったお米
などの重いものから軽いもの
まではかることができます。



さおばかり

さおの 先に、はかりたいものをつるす 鉤があり、反対側に
ぶんどう (おもり) をかけて、さおが水平になった時のおもりの
い ち め も おも
位置の目盛りで重さをはかります。



だい
台ばかり

はかりたいものを台にのせ、さおの先にぶらさがっている 棒にお
もりをのせ、さおが水平になった時のさおの 目盛りをよみ、その
め も おも くら おも
目盛りにおもりの重さを加えたものが重さになります。

むかしの学校

明治時代の今から150年ぐらい前に小学校ができ、子どもはみんな学校に行くようになりました。でも、家がまずしかったり、家の手伝いをしなければならないため学校に行けない子どももいました。最初の頃はりっぱな校舎はなく、お寺などを学校にしている所もありました。勉強は読み方、書き方、算術(算数)、修身(道徳)、体操(体育)、手工(工作)、唱歌(音楽)などで、遠足、運動会、学芸会といった行事もありましたが、プールはなく、川などで水泳の練習をしました。また、男女別々のクラスの時期もありました。鉛筆、帳面といった文房具はとても大事で、布のかばんや風呂敷に包んで持っていました。



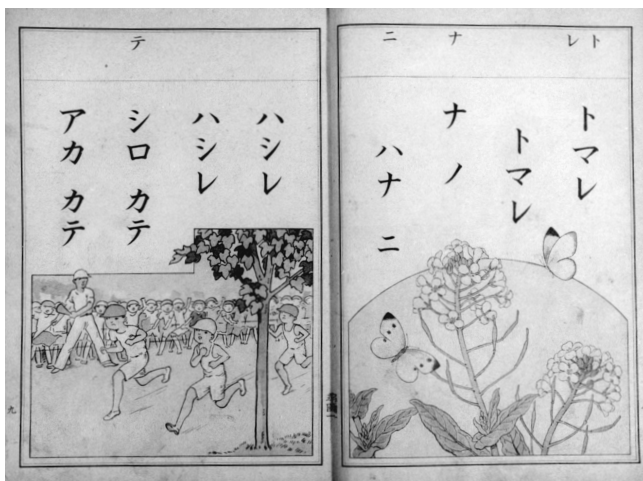
授業風景

吹田第一尋常小学校 (現吹田第一小学校)

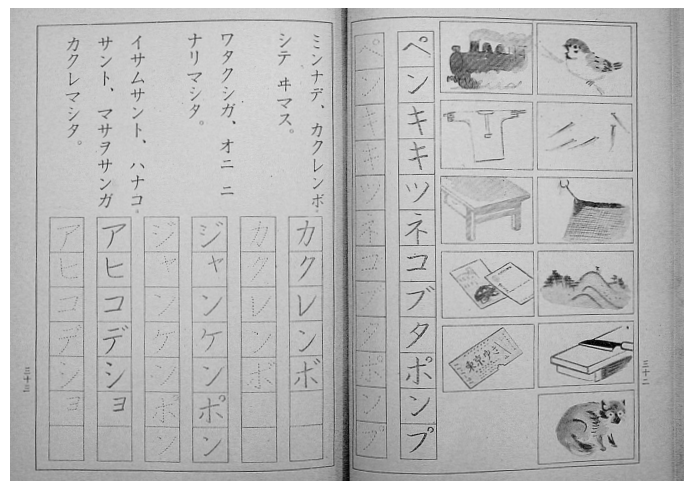
『吹田第一尋常小学校卒業記念写真帖』

昭和13年より

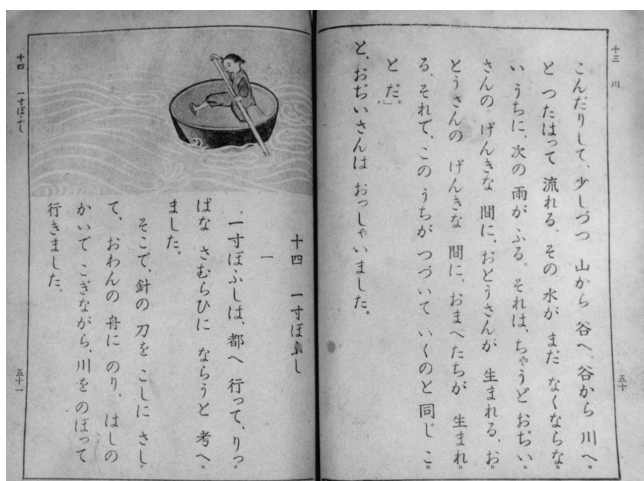
むかしの教科書



小学国語読本尋常科用 巻一 昭和8年



コトバノオケイコー 昭和16年



よみかた三 第二学年 昭和18年



カズノホン三 昭和19年



おにがわら

鬼瓦 千里第一小学校蔵

千里第一小学校となる前の片山小学校（現在の片山小学校ではない）の校舎の瓦で、吹田で最初に建てられた校舎に使われていたものです。



おにがわら

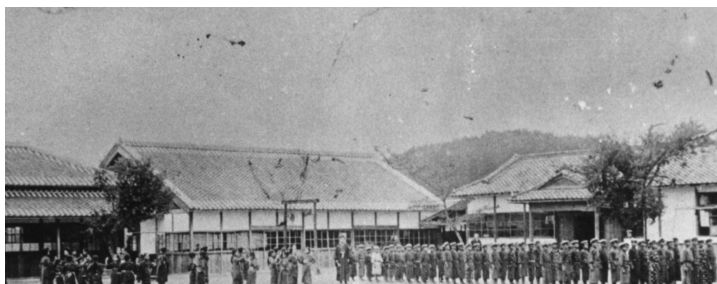
鬼瓦 山田第一小学校蔵

明治28年に山田第一小学校が現在の場所に建てられたときの校舎の瓦です。その前は安養寺というお寺が学校になっていました。



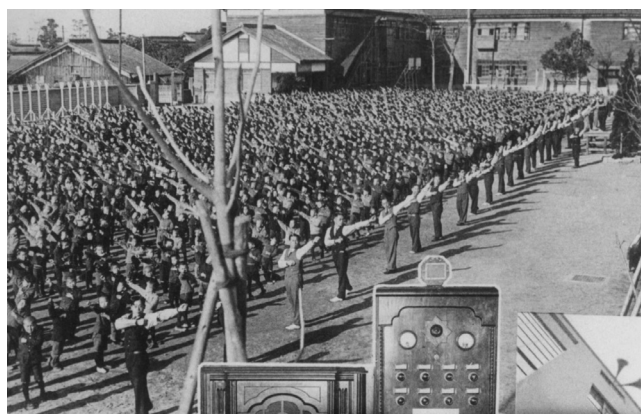
山田尋常小学校（現山田第一小学校）の校舎

昭和7年 『山一創立百周年記念誌』より



豊津尋常小学校（現豊津第一小学校）の校舎（北之町校舎）

明治26年 『豊津第一小学校創立百周年記念史誌』より



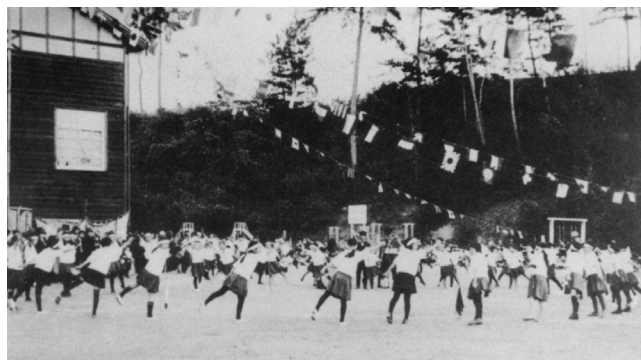
朝のラジオ体操 吹田第一尋常小学校
（現吹田第一小学校）

昭和13年 『吹田第一尋常小学校卒業記念写真帖』より



運動会 豊津尋常小学校（現豊津第一小学校）

昭和8年 『豊津第一小学校創立百周年記念史誌』より



運動会 千里第二尋常小学校（現千里第二小学校）

昭和4年 『千里第二小学校創立50周年記念誌』より



卒業写真 岸部尋常小学校（現岸部第一小学校）

明治44年 『岸部第一小学校百周年記念史誌』より

給食

むかしの学校には給食はなく、お弁当を持っていきました。
80年ほど前、戦争がはげしくなって食べるものがなくなり、
パンだけの給食が始まった学校があります。すべての学校で給
食が始まるのは戦争が終わってしばらくした70年くらい前からで
す。最初のころは毎日メニューが変わる今とはちがい、食べるも
のも少なく、ミルクは脱脂粉乳という牛乳から脂をとった
粉ミルクで、あまりおいしくありませんでした。



給食のはじまり 吹田第三小学校 昭和22年
『吹田第三小学校創立50周年記念誌』より



行季弁当

学校に持っていく弁当は、白い
ごはんに梅干し一つの日丸弁
当。みりん干し、しゃけが入っ
ているとごちそうでした。



メンツ (弁当箱)

ひのきのうすい板でできて
います。

むかしの子どもと遊び

学校から帰ると子どもは今のようには勉強をするよりは、家の手伝いをよくしまし
た。田や畑の仕事を手伝ったり、水くみや牛のえさを作ったり、兄弟が多かったので
弟や妹をおぶって子守りもしました。雨が降
るとぞうりも編みます。だけど、暇があれば
よく遊びました。テレビもゲームもなく、外
で遊ぶことが多く、川や池で魚をと
ったり、かくれんぼ、鬼ごっこ、石けり、け
んけんなどをしました。男の子はベッタン、
輪回し、ドウマ、こままわし、ビー玉、竹
馬、女の子はなわとび、まりつき、ままご
と、ゴムとびもしました。家の中でおはじ
き、お手玉もしました。自分で作るおもちゃ
もたくさんありました。



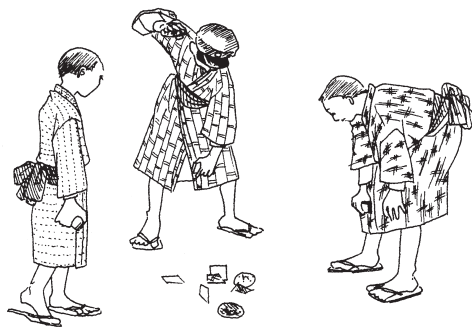
ベッタン

その時々の人気者の絵がかかれています。



お手玉

歌をうたいながらほうり上げ、
受けるとまたすぐにほうり上げ、
一度に2つ、3つと同時にほうり
上げます。



地面においた相手の札近くに自分の札をたたきつけ
相手の札をひっくり返すと自分のものになります。

がっこう すう

学校数のうつりかわり

ばんばく ひら まえ せん り

万博が開かれる前、千里ニュータウンでは、佐竹台小学校をはじめ8つの小学校がつぎつぎと開校しました。吹田市ではその後も、山田第三小学校を皮切りに、昭和61年（1986年）の山田第五小学校までの、合わせて11校の小学校が開校しました。

あた ら がっこう てつきんこうしゃ

新しい学校は鉄筋校舎であり、その一方で古くから吹田市内にある小学校は木で造られた校舎だったので、建て替えを望む声がありました。ニュータウンの学校も、教室だけではなく、プールや体育館をもとめる声が強くなっていきました。

やがて、ニュータウンの子どもの数が少なくなり、平成15年（2003年）竹見台小学校と南竹見台小学校が、一つの学校となり千里みらい夢学園 千里たけみ小学校が開校しました。平成21年（2009年）には北千里小学校が開校しました。また、平成27年（2015年）吹田市では29年ぶりに新しい学校 千里丘北小学校が開校しました。



しょうわ ねん
昭和37年

げんざい さ たけだいよう ち えん ぼ しょ かいこう さ たけだいしょうがっこう
現在の佐竹台幼稚園の場所に開校した佐竹台小学校。
『佐竹台小学校創立50周年記念誌』より

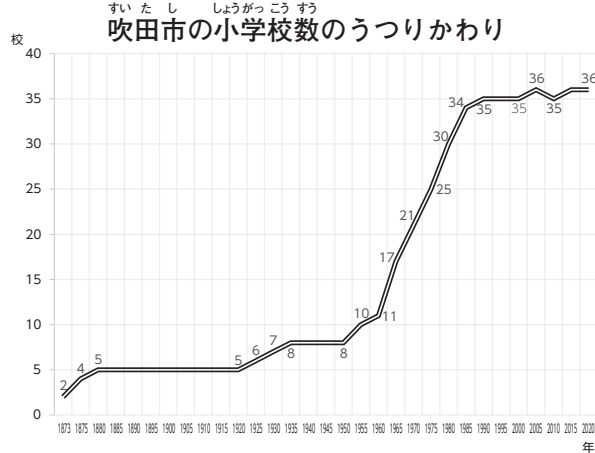


しょうわ ねん かいこう ももやまだいしょうがっこう ちか
昭和42年に開校された桃山台小学校の近くには、
まだ多くの自然がありました。

ももやまだいしょうがっこうそうりつ しゅうねん き ねん し
『桃山台小学校創立50周年記念誌』より

さ たけだいしょうがっこう しょうがっこう かい

吹田市の小学校数のうつりかわり



しょうわ ねん しんこうしゃかいこう もくぜん すい た だいに しょうがっこう
昭和39年 新校舎開校を目前にしたころの吹田第二小学校の
旧校舎。現在のいずみ公園あたりに建っていました。



しょうわ ねん げんざい ぼ しょ いてん しんこうしゃ こうてい き ぎ わか
昭和40年 現在の場所に移転した新校舎。校庭の木々も若く、
真新しいたたずまいです。

すい た だいに しょうがっこうそうりつ しゅうねん き ねん し
『吹田第二小学校創立80周年記念誌』より

特別企画 むかしのくらしと学校

令和4年(2022年)12月1日発行

吹田市立博物館

〒564-0001 大阪府吹田市岸部北4丁目10番1号

TEL (06) 6338-5500

FAX (06) 6338-9886